

# 5. 笠間市介護健診ネットワークの構成 (イメージ図)

## 2 事業所アプリケーション

・パソコンに導入した専用アプリにて、クラウドシステムと通信し、要介護者・見守り対象者の情報参照と、ケアプラン・薬事等情報共有を行う。



※薬局はノートパソコン

## 1 情報提供システム (住民・家族等)



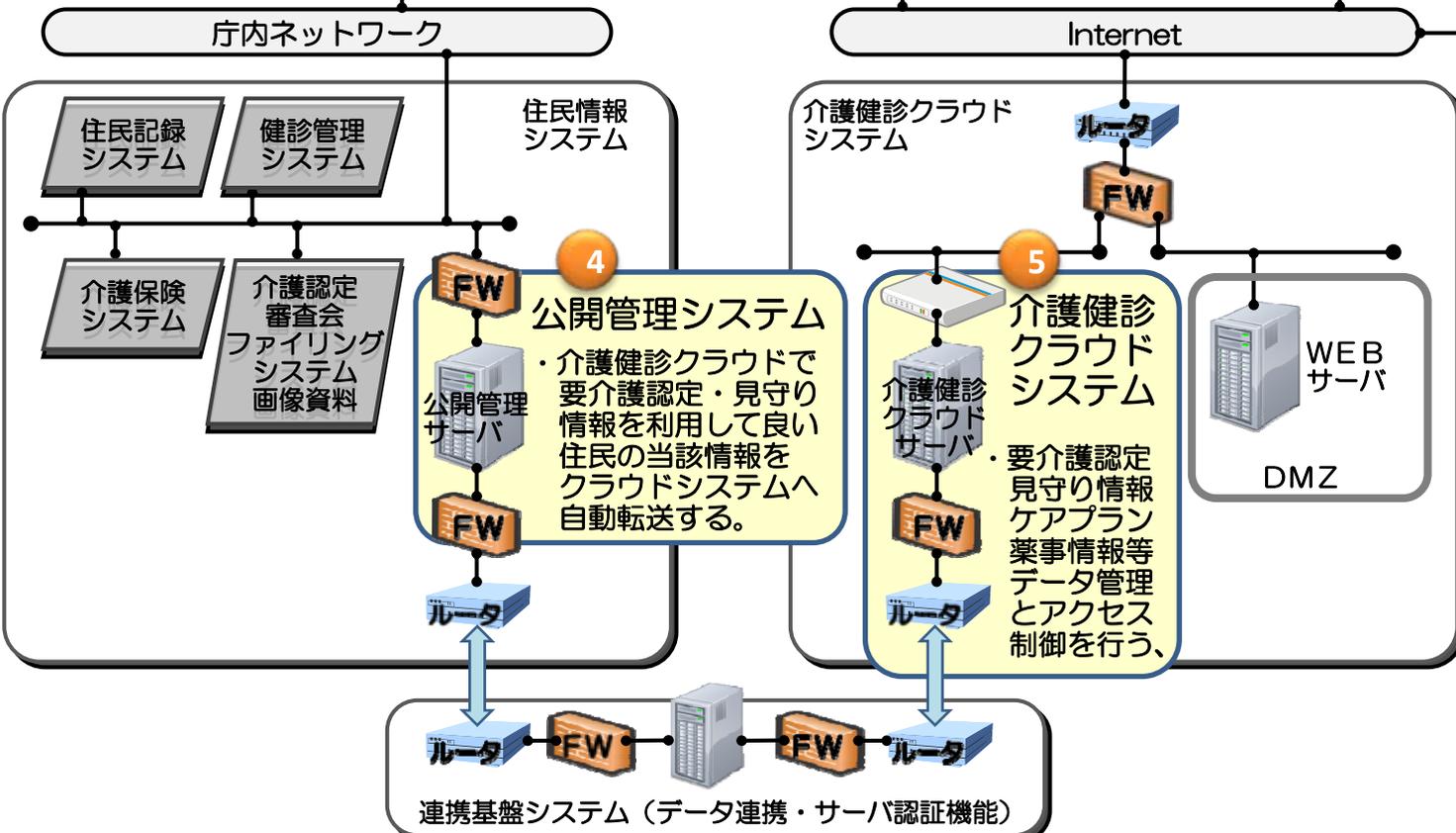
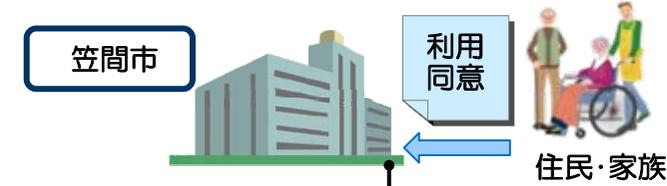
・事前に利用申請を行い、介護の認定結果やケアプラン照会、市で実施の健診結果照会を行う。  
・見守り関係者と掲示板機能で相談を行う。

## 3 携帯端末アプリケーション



・iPadに導入した専用アプリにて、クラウドシステムと通信し、対象者の情報照会を行う。  
・救急や介護現場iPad  
・救急用機能では搬送者の患部画像等を搬送中にリアルタイムで病院へ転送することで、病院到着時に迅速な処置が可能。  
・見守り情報記載の緊急連絡先を確認することで単身高齢者搬送時に関係者と早期に連絡を可能とする

※介護の現場でも情報参照、画像登録、掲示板機能の有効活用を行う。



**4 公開管理システム**  
・介護健診クラウドで要介護認定・見守り情報を利用して良い住民の当該情報をクラウドシステムへ自動転送する。

**5 介護健診クラウドシステム**  
・要介護認定見守り情報ケアプラン薬事情報等データ管理とアクセス制御を行う。

連携基盤システム (データ連携・サーバ認証機能)

# 5. 笠間市介護健診ネットワークの構成

**1 情報提供システム**



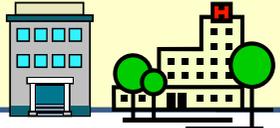
住民・家族等

- ・事前に利用申請を行い、介護の認定結果やケアプラン等照会、市で実施の健診結果の照会を行います。
- ・住民・家族等は、事業者・見守り関係者と掲示板機能で相談することができます。



住民・家族等保有のパソコン

**2 事業所アプリケーション**



- ・「介護事業者」「医療機関」「薬局」にて、要介護者など見守り対象住民の要介護認定情報、健診情報、薬事情報を共有することにより、質の高い介護・福祉サービスを提供します。
- ・「介護事業者」保有のケアプラン等情報の公開機能、「薬局」から薬事情報の 関係者伝達機能、見守り関係者内での掲示板機能で情報交換を行います。



**3 携帯端末アプリケーション**



- ・iPad に導入した専用アプリにて、クラウドシステムと 通信し、対象者の情報照会を行います。
- ・救急用機能では搬送者の患部画像等を搬送中にリアルタイムで病院へ転送することで、病院到着時に迅速な処置が可能になります。
- ・見守り情報記載の緊急連絡先を確認することで単身高齢者搬送時に関係者と早期に連絡をとることができます。iPad は、介護等の現場にも持参し、照会業務や画像を支援関係者に掲示板機能で伝達します。



**4 公開管理システム**



- ・住民・家族等からの申請（同意）を元に、介護健診クラウド側で要介護認定・健診・見守り情報等の当該市保有情報をクラウドシステムへ自動転送します。
- ・転出・死亡により、クラウドシステム側で継続保持不必要となった住民の情報を削除する命令をクラウドシステムへ自動転送します。
- ・住民・家族等、介護事業者・医療機関・薬局・消防職員の情報照会・登録アクセス権限を管理します。



市職員が利用する庁内パソコン

**5 介護健診クラウドシステム（本体）**



- ・①情報公開システム、②事業所アプリケーション、③端末アプリケーション と通信を行い、照会機能・画像登録機能、掲示板機能を、アクセス権限（④公開管理システムから受信）に従って制御します。
- ・④公開管理システムからの情報を受取り、暗号化してデータベースに格納・管理します。
- ・②事業所アプリケーション、③端末アプリケーションとSSL通信に加え、専用暗号化通信を行います。



## 8. 安全対策について（ハードウェア及びシステム上の対策）

- 1
- ・民間介護事業者は、ログイン時に生体認証（指静脈）を利用して、本人確認を行います。
  - ・ID/パスワードに加え、マトリックス認証を行います。
  - ・ウィルスチェック等、セキュリティソフトを導入します。



- 2
- ・医療機関のタブレットパソコンは、ビジネスモデルを採用し、落下時耐久性や、USB経由データ授受不可を備えます。
  - ・ウィルスチェック等、セキュリティソフトを導入します。



- 3
- ・事業者アプリケーション（介護事業者、医療機関（薬局含む））は、インターネット上を一般的なSSL通信（Secure Sockets Layer）で暗号化しつつ、さらに独自の暗号化を加え、二重の暗号化通信で高セキュリティ通信をします。

- 4
- ・情報提供システムは、インターネット上を一般的なSSL通信（Secure Sockets Layer）で暗号化して、住民保有のパソコンと安全に通信を行います。

- 5
- ・携帯端末アプリケーション（救急車、介護等現場）は、インターネット上を一般的なSSL通信（Secure Sockets Layer）で暗号化しつつ、さらに独自の暗号化を加え、二重の暗号化通信で高セキュリティ通信をします。



- 6
- ・各サーバは、必ずファイアウォール経由で外部と通信するネットワーク構成としています。
  - ・不正な通信は通らないように、ブロックする設定を行っています。



- 7
- ・インターネットに繋がる口には、特に高セキュリティ機能を搭載したファイアウォールを設置しています。
  - ・不正侵入検知（ブロック）機能や、ウィルス検知（ブロック）機能を搭載し、安全性を確保しています。



- 8
- ・インターネットに一次接続されるネットワーク領域には介護健診クラウドサーバを置かず、WEBサーバが一次受けを行います。
  - ・介護健診クラウドサーバ内のデータを守ります。

- 9
- ・WEBサーバと分離された独立したネットワーク領域に介護健診クラウドサーバを設置し、インターネット側からの不正アクセスを防ぎ、サーバ内のデータを守ります。

- 10
- ・住民情報システムをクラウド側と直接連携させず、公開管理サーバ経由で情報の連携を行います。
  - ・クラウド側と接続される通信経路を多段階化にすることで住民情報システムの安全性を確保します。

- 11
- ・住民情報システム側とクラウド側のデータ連携経路に、複数のFWを設置し、許可された情報のみ通過します。
  - ・不要・不正な通信を全てファイアウォールでブロックし、住民情報システムの安全性を確保します。

- 12
- ・笠間市側のデータセンタと接続する連携基盤は、専用線同等のIP-VPN線にて回線経由の侵入を防御します。